

茶の里、白川も春風吹くと新茶の季節



白川の風



ふるさと茶屋情報誌
2013年春号 vol.44

鱒判茶園では冬の眠りから覚めた草花の緑が輝きを見せ始め、新茶に向けての作業がスタートしました！
私たちも冬の間なまった体を少しずつ慣らしながら、また遅霜がこないことを祈りつつ、茶畑の手入れを皆ぞ力を合わせて作業をすすめています。
今後も皆さまのご期待に応えるべくスタッフ一同がんばってまいりますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願ひ申し上げます。

茶畑日記

待ちわびた春 そして新茶の準備...

この冬は例年になく寒さの厳しい冬で、特に1月～2月にかけては氷点下7℃を下回る日が20日にも渡って続きました。また、降雪も何度かあり2月後半に降った雪は茶畑を白く覆い茶樹を凍らせてしまうかのような寒口とした光景でした。

3月に入ると一気に春の気差しが感じられるようになり、茶畑の周りの草花やネコヤナギが芽を出し始めました。茶畑では厳しい寒さの影響が現れて、茶樹の表面の葉が赤く変色してきました。しかし、その下には濃い緑色をした葉が出番を待っているかのように見ることが出来ます。

茶畑での作業は新芽を育む元肥として魚粕の施肥から始まりました。続いて茶畑の畝間や周辺に成長してきた草の抜き取りと茶樹の裾刈りが行われました。例年だと新芽がそろって芽吹くための春整枝が続けて行われますが、今年は春の訪れが遅かったため少し時期を遅らせて3月下旬から4月上旬に行われました。

これから心配されるのは遅霜です。3月のほかほか陽気はこゝ白川では4月後半の寒波襲来の前触れともいわれています。平穏な陽気で新芽が順調に育ってくれることを願ひながらの作業が続きます。



裾刈り



春整枝



広い茶畑の草取り

東座に記帳所 勘三郎さんへのお



歌舞伎小屋「東座」

昨年12月にご逝去された歌舞伎俳優であり、東座名誉館主の中村勘三郎さんを偲び12月19日～27日、白川町黒川の歌舞伎小屋「東座」に追悼記帳所が開かれました。会場には勘三郎さんが東座を訪れた際の様子を伝える写真約80点も展示され、記帳に訪れた多くの方が勘三郎さんを偲んでいました。

中村勘三郎さんと東座のつながりは、平成3年に東座が修復された際のこけら落とし記念公演に当時勘九郎だった勘三郎さんを名誉館主お招きしたのがはじまり。平成18年には、中村勘三郎親名披露公演も東座で開催され、東座を通じて地元の人たちと親交を深められました。

